



福島県いわき市立玉川中学校

学校だより

# たまがわ 12

発行責任者 校長 丹野 英雄

第12号 令和7年3月14日発行

## 【校章の由来】

中央の円は玉川地区の和と円満さを、縦の2本線は学区内を流れる2つの川を表しています。清い川の流れの水しぶきを受け、発展する玉中を象徴するデザインになっています。

人知れず涙する生徒、涙をこらえる生徒、正面を見すえる生徒  
～ 様々な思いを胸に卒業生が立派に巣立っていきました ～



3月13日(木)、市議会議員の 柴野 美佳 様、PTA会長の 志尾 幸春 様をはじめ、本校学校評議員・PTA役員の皆様ご臨席のもと、多くの保護者の方々に見守られながら第43回卒業証書授与式を挙行之、65名の卒業生を送り出すことができました。呼名され登壇した卒業生一人一人に校長から卒業証書を手渡した後、式辞を述べました。続いて、本校PTA会長様 からも温かいお祝いの言葉をいただきました。

校長式辞では、卒業生がいわき市や福島県の復興・創生のシンボルとして、さまざまな分野で活躍してくれることを期待しつつ、次のようなメッセージを送りました。1つ目は、「親や家族」「友人」「恩師」「後輩」など、自分に関わりがあるかけがえのない人の存在を大切にしてほしいと説きました。2つ目は、自分の生活を豊かにするために目標や夢や希望を抱き続けてほし

いと説きました。3つ目は、竹のようにしなやかで強い心を持ってほしいと説きました。

卒業生は、小学校高学年の頃からコロナ禍となり、昨年度の5月に5類感染症に移行するまで、様々な制限や支障があるなかで学校生活を送ってきました。そのような中、ただ単に我慢するのではなく、互いに知恵を出し合いながら前向きに行動するよう努めてきました。その成果は、日々の生活をはじめスポーツ大会や若葉祭、部活動や諸活動など、さまざまな場面に表れていたと思います。

卒業式では、さまざまな思いが込み上げ涙する生徒、思いを噛みしめ涙をこらえる生徒、じっと正面を見すえる生徒、それぞれ見せる姿に違いはあったものの卒業生みんなが輝いていました。それぞれの新たな進路に向け巣立っていった卒業生の前途に幸多きことを願っています。

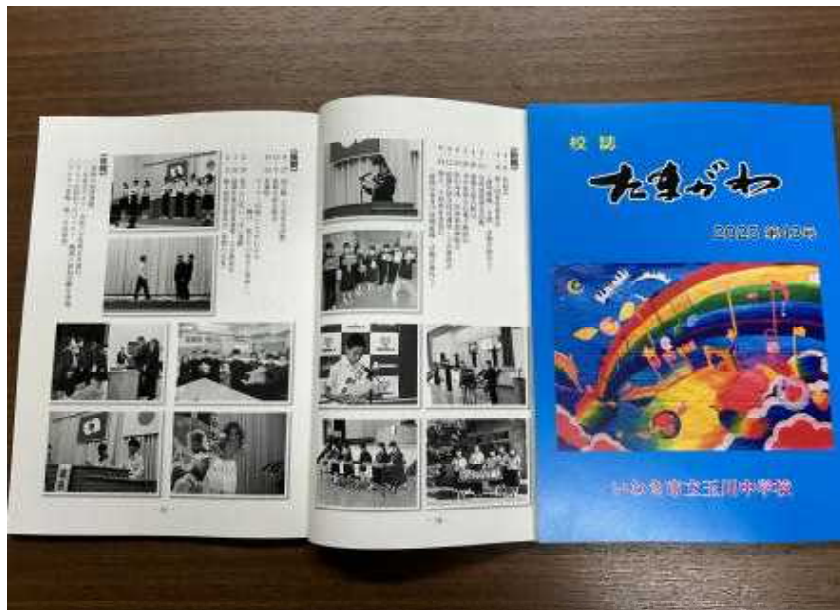
## 卒業生の前途に、幸多きことを願いつつ

# 校誌「たまがわ」第43号を発刊しました

本校では、創立当初の昭和57年度から卒業シーズンに合わせて校誌「たまがわ」を編集しており、今年度で第43号の発刊を迎えました。

校誌の内容としては、卒業生の巣立ちに向けて先生方から寄せられた「贈る言葉」をはじめ、生徒会活動の歩み、部活動などの思い出が収められています。

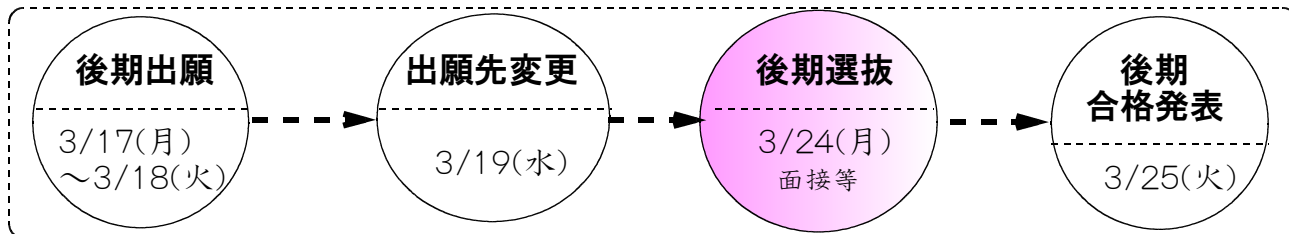
さらに、3年生一人一人が学校生活を振り返って記録に残したいことを綴った文集や在校生からの感謝のメッセージ、各学級の紹介ページ、いわきのおもな出来事なども掲載されています。



## 3年生は今～県立高校後期選抜のしくみ

### 県立高校後期選抜

県立後期選抜は、県立前期選抜までに定員に満たなかった高校で生徒を募集する制度です。感染症対応による追検査等も欠席せざるを得なかった生徒等を対象に同日程で行われます。



### 【東日本大震災から14年が過ぎても……】

平成23年3月11日、午後2時46分に東北地方太平洋沖地震が発生し、大きな揺れが私たちの日常に襲いかかってきました。その直後には、福島・宮城・岩手の太平洋沿岸地域は壊滅的な津波被害を受けました。いわき市でも、たくさんの方が犠牲となられ尊い命を落とされました。さらに、追い討ちをかけるように福島第一原子力発電所がすべての電源を喪失し、未曾有の原子力災害が起きていることが明らかになりました。

14年前に起こった震災の記憶は徐々に薄らいできていますが、決して風化させてはならないと考えます。私たちは多くの犠牲の上に生かされていることを改めて深く考える必要があります。そして、日本や世界の国と地域の人々から温かい支援の手が差し延べられたことへの感謝を忘れてはなりません。そのことを皆さんと共に再確認しておきたいと思います。

### 【教育目標】

健康でたくましく生きる生徒  
自ら進んで学習する生徒  
思いやりをもち奉仕する生徒



QRコードを読み取ると  
本校ホームページにつながります。

〒971-8127

福島県いわき市小名浜玉川町西24番地

TEL 0246-58-6711 FAX 0246-58-6712

E-mail tamagawa-jh@city.iwaki.lg.jp